

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22305	食品材料実験 Experiment of the food Materials	山本 淳子			1	必修	2前期・後期
科目の概要							
<p>食品材料が持つ有効な機能性を最大限に引き出し、食べ物として人体に取り込むためにはどのような調理・加工操作が適しているのかを科学的に身に付けることを目的とし、ディプロマポリシー③に対応している。実験を通して、食品素材の変化を観察し、理解を深め、ディプロマポリシー②、③を身に付け、新しい問題を発見するディプロマポリシー④を身に付けることが重要である。この授業では、食品素材の持つ基本的性質についての理解を深め、獲得した知識を活用することで栄養士に必要な科学的に判断する力、調理への応用力を身に付け、さらに地域連携の取り組みをととして（ディプロマポリシー①）、課題解決する力を身に付ける。</p>							
学修内容				到達目標			
<p>① 基本的な器具、装置の使用法、実験の目的・意義を説明し、3～4人のグループで実験を行う。 ② 結果のみを重視するのではなく、実験経過に基づいた観察をして科学的に考察し、発表する。 ③ 食品学や調理科学で学んだ食品材料の知識を再確認し、地域連携の取り組みに活かすことができる。 ④ より合理的に調理ができるように考えて行動する。 ⑤ 実験をととして、食品の調理・加工機能を十分理解し、レポートにまとめる。</p>				<p>① 基本的な器具、装置の使用法を習得し、なぜこの実験を行っているかの理由とその意義を考えて行うことができる。（ディプロマポリシー③） ② 実際の実験経過に基づいた観察をして科学的に考察し、わかりやすく説明できる。（ディプロマポリシー②、③） ③ 実験をととして、食品材料の知識を活用し、具体的に現象における問題点や地域連携の取り組みにおける問題点を解決することができる。（ディプロマポリシー①、④） ④ 食品の調理・加工機能を十分理解し、行動できる。（ディプロマポリシー②） ⑤ なぜこの実験を行っているかの理由とその活用意義などをふまえ、調理における課題の解決策をレポートにまとめることができる。（ディプロマポリシー④）</p>			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的な行動事例					
前に踏み出す力	主体性	1年次に学んだ関連科目を復習し実験に備え、実験にすずんで取り組み、実験結果を出すことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	自ら進んで実験に取り組み、発表することができる。					
考え抜く力	課題発見力	不明な点は質問等により明確にしたことをふまえてレポートにできる。					
	計画力						
	創造力	実験方法の手順や流れを考えて行動し、失敗したときでもその理由を考えることができる。					
チームで働く力	発信力	実験結果の考察発表において、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。					
	傾聴力	班で実験結果をまとめる際に、相手の話を聞くことができ、質問することができる。実験の手順ポイントを聞くことができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席せず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
<p>教科書：調理科学実験 編著：大羽和子・川端晶子（学建書院）2,970円 参考文献：調理と理論 山崎清子共著（同文書院）</p>							
他科目との関連、資格との関連							
<p>他科目との関連：調理科学、食品学 資格との関連：栄養士</p>							
学修上の助言				受講生とのルール			
<p>次回の実験までに、テーマに関するテキストの実験の目的および参考をよく読んで、実験に備えること。実験後のレポートの考察は、関連科目の文献を参考に考えを深めてまとめること。期末試験では、考察が重要となる。</p>				<p>3～4人グループで実験を行う。グループ活動のため、自分の役割を考え班員と協力して行動すること。欠席しないこと。</p>			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	40	①	✓	・各食品の調理性、原理について例をあげて説明することができるか、実験結果から、なぜそのような結果になったのか説明できているかを、レポートおよび期末試験により評価する。 ・期末試験では、知識を用いて実際の調理・加工と関連付け、課題解決することでpisa型学力の理解ができているかを問う内容を出題する。		
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	平常評価	小テスト		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート		40	①	✓		・実験ノート(レポート)提出により、なぜこの実験を行っているかの理由と結果から何がわかったかその理由を関連科目である調理科学、食品学などの知識をふまえて考察し課題解決ができているかを評価する。
					②	✓		
					③	✓		
					④	✓		
					⑤	✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		10	①		・当番班により結果と考察の発表を行い、スピーチの様子（声の大きさ・話し方・構成など）を評価する。JAあいち三河連携事業として、春夏野菜レシピ作成、料理作製発表実施および豊田市環境政策課連携事業として、10/29ふじおか防災キャンプ、12/3豊田市環境学習施設エコットでのエコットフェア参加、1/22および1/29エコット食品ロス削減・防災食レシピ料理教室実施での発表・政策について評価する。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性) 自ら進んで実験に取り組み、発表することができる。 (実行力) 実験方法は提示された方法のみではないので失敗したときはその理由を考え、よりよい方法を提案できる。 (発信力) 実験結果の考察発表において、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 (傾聴力) 班で実験結果をまとめる際に、相手の話を聞くことができ、質問することができる。実験の手順ポイントを聞くことができる。 (課題発見力) 不明な点は質問等により明確にしたことをふまえてレポートにできる。 (創造力) 実験方法の手順や流れを考えて行動し、失敗したときでもその理由を考えることができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀) は、各食品の調理性や原理についての的確に発表や期末試験において説明でき、レポートにまとめることができる。さらに、調理実習や生活の中で応用実践することができる。</p> <p>A (優) は、実験結果と文献・資料などのデータと比較し、実験の目的に沿って考察し、他の関連科目（調理学・食品学）の知識をふまえて発表することができる。これをもとに、各食品の調理性や原理についてレポートにまとめることができ、期末試験で説明できる。</p>	<p>B (良) は、実験結果のデータを実験の目的に沿って発表することができる。これをもとに、他の関連科目（調理学・食品学）の知識をふまえてレポートにまとめることができる。</p> <p>C (可) は、授業内での発表やレポートにまとめることはできているが、結果のみの考察である。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション、実験に際しての注意事項。レポートのまとめ方、シラバスの説明。むらさき麦について説明・話し合いをする。	講義 質疑応答 グループディスカッション	今後の実験に関わる調理学の内容について確認できる。むらさき麦について話し合い、レシピを完成できる。	(復習)むらさき麦について調べ、まとめておくこと。レシピを考える。 (予習)むらさき麦についてレポートにまとめる。試作のレシピを完成させておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	むらさき麦の調理性に関する実習、むらさき麦を使ったレシピを作成し、試作を行う。	講義・実験 質疑応答・ レポート(確認コメントしてフィードバックする)	考えたレシピの試作品を作製し、さらに改良点を見つけレシピを完成させることができる。	(復習)試作後、改良点などについてレポートを作成する。 (予習) P76 官能評価に関する 参考を読み、重要箇所をまとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	むらさき麦の調理性に関する実習、むらさき麦を使ったレシピを作成し、試作を行い、官能評価を行う。食品の評価方法を理解する。	講義・実験 発表：PC (NotebookLMを活用) レポート(確認コメントしてフィードバックする)	試作品を完成させ、試作会を行い、各班のお菓子の評価を行い、官能評価について習得できる。	(復習)お菓子の完成品について、官能評価についてのレポートを作成する。 (予習) p115, 117米に関する 参考を読み、重要箇所をまとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	米の調理性に関する実験、米の吸水性には、品種、水温、浸漬時間が影響すること、炊飯状況を観察し、炊飯の調味料の影響を学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	米の吸水、炊飯のポイント理解、炊飯の調味料の影響を説明できる。	(復習) 米 に関する実験後、レポートを作成する。 (予習) p119, 123 小麦粉に関する 参考を読み、重要箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	小麦粉に関する実験、小麦粉の種類によりグルテン含量の採取、ケーキを作製し、膨化調理の原理を学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	小麦粉の種類によりグルテン含量が異なること、小麦粉の膨化調理の原理を説明できる。	(復習) 小麦粉に関する実験後、レポートを作成する。 (予習) p163, 165 卵に関する 参考を読み、重要箇所箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	卵の調理性に関する実験、卵の鮮度鑑別、卵の起泡性と安定性、卵殻、卵黄、卵白の割合、卵黄係数、濃厚卵白率を求め、卵の構成を知る。卵白の起泡性を確認する。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	卵の鮮度の違い、確認方法が説明できる。卵白の起泡の安定性について調理に応用できる。	(復習) 卵の鮮度の鑑別、卵白の起泡性に関する実験後、レポートを作成する。 (予習)食品ロスについて調べておく	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	食品ロス削減のレシピ考案：豊田市環境学習施設エコット連携事業食品ロス削減のレシピを作成し、エコットでの親子料理教室を実施する。	講義・実験 レシピ発表：PC活用 (NotebookLM) レポート(確認コメントしてフィードバックする)	食品の特徴をいかし、食品ロス削減したおいしいレシピを完成にすることができる。	(復習) 食品ロス削減のレシピの料理教室のため、改善点を把握しより良いものとする、これらをレポートにまとめる。 (予習) p199, 201 油に関する 参考を読み、重要箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	油の乳化性に関する実験、ドレッシングとマヨネーズを作製し、乳化性を学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	ドレッシング、マヨネーズの原理が説明できる。	(復習) ドレッシング、マヨネーズに関する実験後、レポートを作成する。 (予習) p182, 183 砂糖に関する 参考を読み、重要箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	砂糖の調理性に関する実験、砂糖の加熱による性状変化を観察し、フォンダン、糖衣、カラメルの製造を知る。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	砂糖液の加熱による性状変化により、調理性が変化すること、加工品への利用を説明できる。	(復習) 砂糖の加熱に関する実験後、レポートを作成する。 (予習) 愛知の野菜、岡崎の野菜について調べておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	野菜のレシピ考案：JAあいち三河連携事業地域野菜のレシピを作成し、地域に発信する方法(ポップ作成、料理教室など)を考える。	講義・実験 レシピ発表：PC活用(NotebookLM) レポート(確認コメントしてフィードバックする)	地域野菜・伝統野菜のレシピの料理教室のため、改善点を把握しより良いものとする、これらをレポートにまとめることができる。	(復習) 地域野菜・伝統野菜についてレポートにまとめる。 (予習) p171, 173 乳、乳製品に関する参考を読み、重要箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	乳に関する実験、牛乳の酸凝固を利用しカッターチーズの作製、生クリームの泡立て条件について学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	牛乳からカッターチーズを作製し酸凝固、生クリームの起泡条件が説明できる。	(復習) カッターチーズ、生クリームに関する実験後、レポートを作成する。 (予習) p129 じゃがいもに関する参考を読み、重要箇所まとめておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	いもの調理性に関する実験、デンプンの顕微鏡観察。粉ふきイモ、マッシュポテトの調理機構を学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	じゃがいもの品種による違い、温度の違いで調理操作が異なることを説明できる。	(復習) じゃがいもに関する実験後、レポートを作成する。 (予習) 秋冬の岡崎野菜について、伝統的な食品(八丁味噌・宮崎茶など)を調べておく。notebookLMを活用して調べた資料を整理しておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	JAあいち三河との連携事業として、レシピ開発およびポップや料理教室に向けたレシピ集を完成させることで地域貢献について学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	地域の野菜や食品を組み合わせて、利用しやすくわかりやすいレシピを完成させることができる。	(復習) ポップやレシピ集とするため、見やすさ、わかりやすさを工夫し、改善した内容をレポートにまとめる。 (予習) テキスト p128を確認し、材料配合の異なるクッキーについて参考を読み、重要箇所をまとめておくこと。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	クッキーの材料配合に関する実験 材料配合を変えてクッキーを作り、それぞれの材料の役割について学ぶ。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	小麦粉の加工の副材料の役割を説明することができる。	(復習) クッキーに含まれる、砂糖、乳、卵、コーンスターチの役割についてまとめておく。 (予習) 食品ロス削減、地域の野菜について考えたレシピを確認しておく。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	10月～12月食品ロス削減エコット親子料理教室、むらさき麦料理教室、JA連携料理教室など実施に向けレシピや料理の組み合わせを考える。	講義・実験 発表 レポート(確認コメントしてフィードバックする)	学習内容のいずれか1回に参加することで15回めの講義とする。積極的に地域の方とかかわっているかを評価する。	(復習) 実際に体験したこと感じたこと、レシピやポップなどの改善点をレポートにまとめる。	60	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力